

れはならぬのである。

然るに右翼の組合幹部は、斯くの如き共同戦線黨の成立を妨害し成立した黨をブチ壊す如き態度を以て始終一貫努力したつたのである。

而して何故彼等は第三回中央委員会に於てこれを遂行し得たのであるか。

左右兩翼の發生と對立及び其の各々の特質

日本に於ける無産階級運動は前述せる如く、今や、經濟的闘争から政治的闘争へ發展しつつある。斯かる無産階級運動の發展段階に於いては無産階級階級内部に、斯くの如き運動の發展を阻止し、防禦する右翼階級幹部の存在が顯著となる。

彼等は無産階級の政治闘争を妨害し、否定することによつて、實際上階級階級主義者となり、資本家、政府と妥協結合する。彼等を謂へども政治運動に眞向から反對はせぬ。又黨の組織も否定はせぬ。然しながら彼等の政治運動は單なる選挙運動であり、彼等の政治はアンチオア的な議會黨である。労働黨第三回中央委員會の全決定を見よ。

而して帝國主義的時代に於ける無産階級の階級的利益は、斯くの如き闘争に於ては斷じて獲得し得るものではない。と同時に、無産階級運動は一步も後退し得ない。従つてそれは資本家階級の存在を永久に認容することにほなものであつて、彼等が口先で如何に無産階級解放を云ふするに雖も、それは單なるタラシ以外の何ものでもない。

これに對立した左翼は、運動の各發展段階に於て、常に無産階級の階級的利益を最も忠實に代表し、正しい階級政策を掲げて闘争する。従つて、右翼幹部の階級的眞切りに對してはあくまで闘争するのである。

右翼幹部は自己の階級内から資本家、政府との妥協結合に反對する左翼分子の攻撃を、共同戦線の破壊等を常套手段として用ひる。無産階級の階級的利益を要する階級は、左翼との闘争(アンチオアの忠實な代理人として左翼と階級に闘争する)と自己の存在の必要から、漸次反動化して行く。

然しながら無産階級階級内部に於ける右翼は、公然と反無産階級の本質を大衆の前に曝露するが如きことは敢てせぬ。無産階級階級内部に於けるアンチオアの代理人は、大衆の前で無産階級の眞面を

ぶらねはならぬのである。

故に例へば労働黨よりの脱退、又は分裂が、右翼幹部自身を孤立せしめる如き結果にある場合、彼等はこれを容認する。

即ち總同盟一派の右翼幹部が昨年來よりの全国的單一無産者階級運動に、参加せざるを得なかつたのは、其の無産階級の眞切に對して、彼等は之の眞面を捨てたことなしに共同戦線黨ブチ壊しの機會をねつてゐたのである。然るにその機會、共同戦線黨を大膽に破壊し、プルチオアとして眞面をあげしむる機會は、つひにきた。それは次の如き事柄によつて齎されたのである。

- 一、農民組合脱退派による農民同盟の組織と農民黨の成立
- 二、農民組合内部に於ける福岡縣聯合會の最近の分裂
- 三、全國労働組合聯合會ブチ壊しと労働者組合を中心とする共同戦線黨の成立

斯る右翼に都合のよい一時的現象は、彼等をして等邊黨に對する態度を積極化せしめる結果となつた。

即ち労働黨のブチ壊しは、外觀上には階級的眞切りに行爲であることが露骨に露はれぬ(何故なら彼等も亦一時的には、大衆から支持されてゐるから)ことが確となつた。

斯の如き形勢は、農民組合に次の如き態度をとりしむる結果となつた。そしてそれは、右翼幹部の主張せる三團體排斥は止むを得ず譲歩する。然し其の代り、純農民黨に對し、労働黨をして、これが排斥のために積極的闘争を行はしめる、といふこと(即ちこれである)。

農民組合よりの脱退と日本農民同盟の組織、純農民黨の組織と發展に努力する農民組合山梨縣聯合會の眞切の行動、無産階級階級幹部の露骨な階級と無自覺な無産者をプルチオアの環境に捲けるための、意識的な階級的眞切りに行爲であることは云々までもなく明らかである。而して農民組合が、彼等の運動に對し、全力を集中して戦ふべきことの必要を決定し努力せられたるは當然であつて、少くとも、無産階級の階級的利益を代表した團體が、闘争に参加し、協力して彼等を我無産階級階級から奪り去ることは、當然の義理である。

農民組合の斯かる決意は、正しかつた。だが然るに労働黨をして農民黨と戦はしむる條件の下に、三團體排斥を承認されたことは非常な誤りであつた。三團體排斥を主張した右翼階級は、無産階級階級内部にプルチオアの觀念を灌輸入すること、無産階級を分